

研修報告書No.11

県外病院研修医

大井田病院・沖の島診療所・渭南病院で1ヶ月の間、地域医療研修をさせていただきました。この間に学ばせて頂いたことを報告します。高知県にこのたび初めて足を踏み入れて、どこまでも広がる海、美しい海岸線、たくさんの山々と豊かな自然にとっても感動しました。しかし町を歩く人々は高齢者が多く、また生活するためには車での移動が必要であると感じました。そして独居の高齢者が数少ないバスに乗って通院する姿や、公共交通機関のない山奥で高齢の母と難病をかかえた息子とが2人暮らしをしている姿、共に寝たきりの老夫婦が在宅医療で生活している姿などを目の当たりにして地域の現状の厳しさを痛感しました。どんなに医療が進歩しても患者さん自身に提供することができなくては意味がありません。そんな環境の中でよりよい医療を患者さん1人1人に提供できるよう懸命に働いている先生方とお会いしました。1つの病院に医師は数人しかおらず専門分野以外の多種多様な疾患の方を診療し、訪問診療を行い、当直をこなす多忙な日々を送られていました。外来で先生方の顔を見ただけで安心した顔になる患者さんが数多くいて深く感銘を受けました。

そして医療を必要としている患者さんは数多くおり、どんなに頑張っても医師1人がこなせる仕事は限られているため、多くの職種や機関が連携し、また情報共有の効率化を図ることが肝要であると学ばせて頂きました。なにかしらの疾患で入院し、急性期を脱した後には退院する際には医師、看護師、薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、本人、家族など多くの職種が集まり退院後の方針について話し合いを行い、訪問診療、訪問看護や訪問リハ、デイケアなどその人にとって必要な環境を整えて退院する。そして退院後も情報共有を継続し、状態が増悪しきる前に診察し重症化を防ぎ、自宅で生活を継続していけるよう皆で支えていく、というオーダーメイドの医療を提供していました。訪問診療、訪問介護、地域包括支援センターなどに行かせてもらい、長期入院されている方と在宅で生活されている方とでは表情がまったく違うことを感じ、在宅の偉大さ、自助・互助・共助・公助により地域で生活していくことの重要性を実感しました。

また宿毛地区では他病院のカルテをみることができました。まだカルテは病院ごとに異なっていましたが、1患者1カルテを実現することができれば前医での治療経過、画像検査の時系列での比較、内服薬重複防止、アレルギー、既往歴などプロフィール情報取得など数々のメリットがあると思います。今後実現し、全国へ広がることを切に願います。

沖の島では離島診療を経験させていただきました。あいにくの悪天候であったためあまり外来受診される患者さんはおりませんでした。島の診療所でもレントゲンや内視鏡など検査を行うことができることや他病院とビデオ通話ができると知り驚きました。

また週末には足摺岬、竜串海岸や四万十川など多くの名所を訪れ、高知の雄大な自然を感じました。またこんなにおいしい海鮮を食べたのは初めてでした。高知の人々はみな温かく親切で高知県で研修して本当に良かったです。この1か月間で学んだすべてが私の今後の医師人生に必要なことであったと感じます。よき医療者になれるよう頑張ります。1か月間ありがとうございました。